

今日のキーワード「貿易収支」、輸出鈍化で赤字拡大（日本）

輸出や輸入の動向は、財務省が毎月発表する“貿易統計”で把握することができます。国・地域別や品目別の金額、数量の動向が把握できます。「貿易収支」は、2011年に世界的な景気減速による輸出の減少や震災の影響による燃料輸入の増加などから赤字に転じ、その後2014年まで赤字が拡大しました。2015年は原油安などから赤字の縮小が期待されます。

ポイント1

「貿易収支」の赤字が拡大

中国、EU向けの輸出が減少

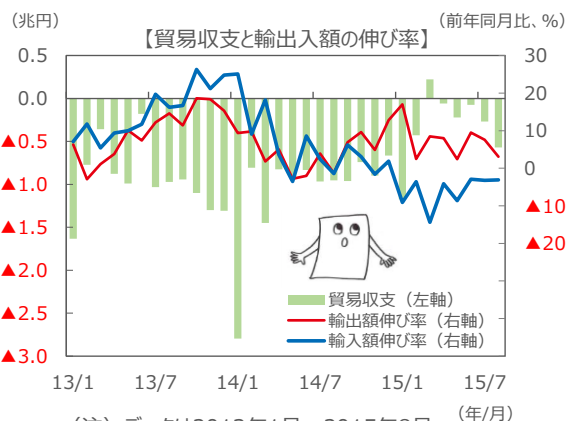
- 財務省が17日に発表した8月の“貿易統計”によると、輸出は前年同月比+3.1%の5兆8,815億円、輸入は同▲3.1%の6兆4,511億円となり、「貿易収支」は▲5,697億円の赤字でした。7月（輸出は同+7.6%、輸入は同▲3.2%）より輸出の伸びが鈍化したことを主因に、「貿易収支」の赤字は7月の▲2,684億円から拡大しました。
- 輸出を国・地域別に見ると、中国向けは前年同月比▲4.6%と6カ月ぶりに減少し、欧州連合（EU）向けも同▲0.2%と9カ月ぶりに減少しました。一方、米国向けは同+11.1%と伸びたものの前月の同+18.8%からは鈍化し、アジアNIEs（韓国、台湾、香港、シンガポール）向けは同+4.2%と前月と同じ伸びでした。中国の景気減速が輸出鈍化の主な要因と見られます。

ポイント2

鉄鋼などの輸出が減少

国内生産への影響が懸念

- 品目別に見ると、輸出は鉄鋼や金属加工機械、映像機器などが前年同月比マイナスとなり自動車の伸びが鈍化したことなどで、全体の伸びが鈍化しました。輸入は原油安で原油や石油製品などが大きく減少し、8カ月連続の減少となりました。
- 輸出の伸びの鈍化が国内生産に影響することが懸念されます。



(注) データは2013年1月～2015年8月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータに基づき
三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

即効性のある景気対策に期待

■ 7-9月期はマイナス成長の可能性高まる

新興国経済の減速の影響などにより輸出の勢いが鈍化してきたことや消費に足踏み感が見られることなどから7-9月期の実質GDPはマイナス成長となる可能性が高まってきました。

■ 景気対策に期待

安倍首相は自民党総裁への再選を受け、経済最優先の政権運営を進める考えを表明しました。国内総生産（GDP）600兆円の目標を掲げましたが、公共投資などの景気対策にも期待がかかります。

ここも チェック!

2015年 9月24日 「外国人旅行者」の消費が地価にも影響（日本）

2015年 9月15日 日銀は現行政策を維持、輸出と生産の判断を下方修正

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。